

くーのいえ通信 4

No.62

■ 自分に伸び代はあるのだろうか ■

わたしは 15 年前、20 年間勤めたハウスメーカーに別れを告げた。えっ!ウソでしょと周りは驚いたが…簡単に言えばこの世界で自分にはもう伸び代がないと思ったからだ。伸び代がない自分に部下を指導育成等できるはずもなく、自分のノルマだけを達成して偉ぶっている自分が嫌いだった、そんな自分がいたら部下にとっては迷惑な話だ。だから中途半端な自分とおさらばしたかったのだ。家内はどうやって三人の子供を育てていくのと不安だらけだったに違いないが、勿論負けん気とやる気はあり「去年より成長する、まだ自分はピークではない」と自分と勝負をしてみたかったのだ。そして 15 年、色々あったが、わかったことはただひとつ、ネガティブでもなくポジティブでもないニュートラルな自分が一番力を発揮できること、そして共存共栄の世界が自分も会社も守ってくれることを学んだ。ここ三年位で世の中は本当に変わったと思う。どうぞよろしく、そこを何とか等が全く通用しなくなり「自分がやらねば誰がやる」的な気概をもち“脱!一億総評論家”しか生き残れない、つまりまずやってみる、そしてやったことが正解と思う生き方だ。そして、もはや常識が非常識となり、非常識が常識となることを理解せずビジネスはできない時代なのだ。今、我々は不況と驚くばかりの物価上昇によりやく気づきは始めている。…考えれば考えるほど先は見えないが、こんなときだからこそ、周りの人に、そして自分に良い言葉を発して「言霊」を信じ、常に自然体で生きていきたい。「まあいっぷくどうぞ…」とおもてなしを忘れずに…。

遠藤孝浩

